

令和6年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

学力検査全体

学力検査は、5教科の総合得点（250点満点）の平均点が55%（138点）前後となることを目安に問題を作成した。

平均点は56.8%（141.9点）であり、予想をやや上回った。

5教科の総合点は、160～180点の層にピークがある分布となった。

教科別の平均点は、次表のとおりである。

教科別平均点等

受検者数（全日制・定時制の全教科受検者）令和6年度 4,946人（令和5年度 5,191人）

満点	各教科 50点 (総合点 250点)					
	令和6年度(増減)	最高	最低	令和5年度	令和4年度	令和3年度
国語	31.5 (+1.0)	49	0	30.5	29.0	29.9
数学	23.6 (1.7)	48	0	25.3	26.8	22.9
社会	29.2 (2.0)	50	0	31.2	30.6	30.6
英語	28.3 (0.7)	50	0	29.0	29.1	28.6
理科	29.3 (+1.7)	50	0	27.6	29.1	29.4
総合点	141.9 (1.7)	236	0	143.6	144.7	141.5

受検生へのメッセージ

日頃の学習では、全教科を通して、次のような点が大切である。

授業を大切にして基礎的・基本的な事項をしっかりと理解するとともに、それらを活用し、筋道を立てて考える力を付ける。

問題の意味を正しく読み取り、考えたことを理由や根拠を明確にして、的確に表現する力を付ける。

社会の動きや身の回りで起こっている事柄にも興味・関心を持ち、学習したことと関連付けて考えてみるようにする。

令和6年度香川県公立高等学校入学者選抜の学力検査の各教科概評

国語

小説を読んで答える問題は、全体的によくできていたが、登場人物の心情を根拠に基づいて適切に表現する問題は、正答率が低かった。

評論を読んで答える問題で、文章を正確に読み取り、筆者の考えを根拠に基づいて適切に表現する問題は、正答率が低かった。

古文を読んで答える問題で、言葉を適切に理解し、文章を正確に読み取る問題は、正答率が低かった。

作文は、話し合いの学習を行っている場面設定の中で、どのような視点に着目したのかを示しつつ具体例などを交えながら自らの意見を述べるものであったが、条件を満たしていないものや、自らの意見を適切な具体例を示しつつ説明できていないものが多かった。

数学

数と式、数量関係についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題は、全体的によくできていた。

図形の性質を利用して、数学的に考察し計量する力をみる問題のうち、基本的な問題は、全体的によくできていたが、難易度が高い問題は正答率が低かった。

関数のグラフを利用して考察する問題のうち、基本的な問題はできていたが、難易度が高い問題は期待した正答率を下回った。

事象を数理的に考察し処理する力、筋道を立てて考え論理的に表現する力をみる問題や難易度が高い証明問題は正答率が低かった。

社会

公民、歴史、地理の3分野のうち、地理分野が最もよくできていた。

公民分野の基本的な用語を答える問題はよくできていたが、為替レートの変動が与える影響について考察する問題は、期待した正答率を下回った。

歴史分野の資料から必要な情報を的確に読み取り、歴史的事象の理由を説明する問題は、期待した正答率を下回った。

地理分野の地図や統計資料から必要な情報を的確に読み取る問題は、期待した正答率を上回った。

英語

英語を聞いて文章の内容を聞き取る問題は、期待した正答率を上回った。

会話でよく使われる基本的な表現に関する問題のうち、未習語の意味を前後の文脈から類推し、選択する問題は、期待した正答率を下回った。

本文の内容を参考にして英語を並び替える問題は、期待した正答率であった。

提示されたテーマについての自分の意見を英語で書き表す問題は、単語の綴りや文法の誤りはあったが、知っているさまざまな表現を使って伝えようとする姿勢は見られた。

理科

基本的な用語を答える問題は、よくできていた。

実験や観察の方法を問う問題は、期待した正答率を上回った。

資料や実験結果から考察して計算する問題は、期待した正答率を下回った。

論述問題では、説明が不十分で正確に書けていない解答が見られた。